



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

# もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者  
大分県議会・県民クラブ  
守永 信幸  
〒870-0022  
大分市大手町3-1-1  
TEL 097-506-5088  
FAX 097-538-0136

## 草原を守る『野焼き』の意義を感じて ～九重ふるさと自然学校の取組～

先日、友人の誘いで、春に野焼きをする草原の防火帯づくりを手伝いました。九重ふるさと自然学校の「第5回セブンの森活動」に参加したのです。この活動は2021年から行われており、年1～2回広く参加を呼び掛けているもので、春に野焼きする予定の草原の草がまだ青い内に、周囲の防火帯とする部分を草刈する「輪地切り」という作業を行いました。この作業の後、1ヶ月程すると草刈した草が乾燥するので、その部分だけを焼く「輪地焼き」という作業で防火帯が完成します。そして3月頃新芽が芽吹く前に野焼きをして、草原環境が保たれていくのです。野焼きそのものは熟練した方々によって行われます。

野焼きの準備作業を手伝うことで、草原の豊かな自然を感じる事が出来ました。参加者には子どもも多く、草原という環境の大切さを次世代に伝える上でも貴重な活動であると感じました。

### 生物の多様性を育む草原

「大分セブンの森」は九重町のタデ原湿原の一角で主に活動しています。この地域では明治以前から住民の手で毎年野焼きが行われていましたが、若い人が集落から出て行き、1960年代から草原に人の手が入らなくなり、樹林化が進み始めました。草原が森になってしまうと、日が良くあたる草原の環境で育つ多くの植物が絶滅し、その植物に関わる昆虫も絶えてしまいます。つまり生物の多様性が損なわれてしまうのです。

雄大な九重の草原を守るために「九重の自然を守る会」を中心



▲輪地焼を終えた草原

に、野焼きを復活させようという声が高まり、1997年にタデ原湿原、2000年に坊ガツル



▲九重ふるさと自然学校

湿原で地元住民や環境省、九重町、九州電力などで構成する野焼き実行委員会が野焼きを復活させました。以来今日まで地元の住民と多くの有志によって野焼きが続けられています。



▲九重ふるさと自然学校 見どころマップ

### セブンの森活動と自然学校

セブン-イレブン記念財団は、地域で活動する環境市民団体が新しい社会の担い手として活躍できるように、市民が主体的に行う地域の環境保護活動を様々な角度から支援しています。併せて全国各地で森林、湿原、湖、海等の保全に『セブンの森』活動を展開しています。

特に九重では「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念とした自然学校が2007年4月に開校し、九重の自然の保護・保全活動を支援・実践する取組をしてきました。自然学校が関わる草原1.5%の野焼きも地域の協力を得て2009年から行ってきたそうです。2021年に飯田高原野焼実行委員会、大分県、九重町、セブン-イレブン記念財団の4者が、「草原及び森林において整備・保全に関する協定」を締結。九重の美しい草原の風景や多様性に富む動植物環境を保全する野焼き文化を次世代に継承する活動が、きっとこれからも永く続けられることでしょう。

## 夢と希望あふれる大分県を創る

今定例会では、一般質問に立ち①公共交通を巡る諸課題、②循環型社会の構築、③農林水産業の成長産業化、④県職員の定数・配置、⑤学校教育活動における事故防止、⑦大分分屯地の火薬庫、⑦パートナーシップ宣誓制度等について、執行部の考え方を質しました。

具体的なやり取りは、大分県議会のホームページで中継録画の視聴や議事録の閲覧が出来ますので、是非ご覧頂きたいと思います。この紙面では、質問の概略をご紹介します。



▲質問する守永

### 公共交通網について

【質問】県下の公共交通網は、鉄道を動脈として、路線バスが鉄道の主要な駅をハブに、縦横無尽にカバーしている。人口減少や高齢化が進む中で、公共交通網の在り方を検討すべき時期にきている。

また大分駅以南の複線化、大分市下郡地区の新駅設置などにより利便性を高めるべきと考えるが、知事の考えはいかがか。



▲大分駅前には各地に広がるバス路線の拠点

#### (佐藤知事の答弁)

公共交通網が持続可能なものとなるよう、県内を6つの地域に分け地域公共交通計画を策定してきた。大分市を含む計画では、移動弱者に寄り添う公共交通への転換を課題の1つに掲げ、高齢者等の通院、買い物需要に対応した路線やダイヤの改善等を検討していく。例えば乗合タクシーの事業など利便性向上に繋がるきめ細かな交通サービスが、より多くの地域に広がるよう市町村の取り組みを支援していく。

県都大分市交通円滑化基本方針では、将来BRTの導入をめざすとしているが、長期的な検討課題である。

鉄道の複線化については、県と沿線市町で組織する「日豊本線高速・複線化大分県期成同盟会」が、大分駅以南の全線複線化の早期実現をJR九州に粘り強く働きかける。また、大分市下郡地区の新駅設置は、私も市長時代から課題と捉えており、関係者の検討状況を踏まえつつ必要に応じて助言を行う。

今後とも利用者のニーズにきめ細かく対応できる公共交通をめざし、市町村や関係者と連携しながら、県としての役割を果たしていく。

#### 守永の視点

高齢社会での公共交通は、きめ細かなネットを張るべき。公共交通の利便性を高めて、運転免許

を返納しても困らない環境を整えることが、誰もが暮らしやすい大分を創ることに繋がると考えます。日常利用の交通手段を自家用車から公共交通への転換に積極性を持たせることが必要だと考えます。

### 駅の無人化について

【質問】JR九州のスマート・サポート・ステーション(SSS)が、7月1日から高城、鶴崎、大分、坂ノ市、中判田の各駅でも始まり、当初計画の10駅での運用となった。当面の間大分市が見守り要員を配置している。県は、JR駅の無人化に掛かる安全対策をどう考え、JR九州と連携しながらどう取り組むのか。



バリアフリー工事を終え今回無人化された高城駅





## 大分分屯地の火薬庫について

【質問】大分市駕野の陸上自衛隊大分分屯地に新設される大型火薬庫について、佐藤知事は「国が責任を持って、地元で丁寧な説明を行うとともに、安全対策などに万全を期して頂きたい。県は引き続き市町と連携を密にし、県民の不安解消と安全確保に取り組む」と以前答弁された。しかし大型火薬庫の1棟は今年11月に着工される。さらに湯布院駐屯地に地対艦ミサイル部隊が発足するとの報道もあり、大分分屯地へのスタンド・オフ・ミサイルの保管など、県民に不安感が高まっている。

一方、地元住民への丁寧な説明は無いまま。スタンド・オフ・ミサイルが保管されると、敷戸・駕野地域が敵国から先制攻撃の標的とされる懸念がある。国防は国の専管事項であるとしても、県民の安全・安心のために県として意見すべきである。大分分屯地の火薬庫について、国への意見表明などを含め、これまでの対応について伺う。

(岡本防災局長答弁)

陸上自衛隊大分分屯地の火薬庫新設は、昨年12月に閣議決定された国家防衛戦略及び防衛力整備計画に基づいて自衛隊の継戦能力の維持が目的と伺っている。本年2月に九州防衛局から説明があり、県からは、火薬類の保管についての安全確保や、工事の地元への影響を最小限にするよう要請した。また、説明会開催の要望があった駕野地区の各自治会長に対して5月に概要説明がなされた。

県民の不安などに対しては、国が責任を持って、地元で丁寧な説明を行うとともに安全対策などに万全を期して頂きたい。県としても、引き続き、国の動きや工事の進捗などを注視し、大分市と情報共有や連携を密にしながら、県民の不安解消と安全確保に取り組む。

大分分屯地 位置図



出典：陸上自衛隊 Web サイト (<https://www.mod.go.jp/presiding/1aw/drone/pdf/map/map7-26>) を加工して作成



出典：陸上自衛隊 Web サイト (<https://www.mod.go.jp/gsdf/station/wa/oit.html>) を加工して作成

### 守永の視点

九州防衛局は大分分屯地の詳細を説明しない。防衛力の情報流出を防ぐためとする理由は理解できない訳では無い。保管する弾薬類が接近戦に使用する物であればともかく、敵基地攻撃能力を有する長距離射程ミサイルの格納となると事情は異なる。ロシア・ウクライナ戦争では、原子力発電所や弾薬庫などが標的とされた。有事に敵対国を弾圧しようと考えれば、それがセオリー。周囲に4万人が居住する地域に、長距離射程ミサイルを格納する危険性を周辺住民の理解も無く強行することは、軍事国家のやること。日本が戦前の日本へと後戻りしているように感じられる。

### お知らせ

- ◇常任委員会は「総務企画委員会」に所属。
- ◇行政や暮らしの相談をお受けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの集まりなどに、お声がけ頂ければ、日程を調整の上、参加させていただきます。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。

連絡先：097-532-4919  
FAX：097-534-6598

### 編集後記

吉川はじめ衆院議員が、7月に欧州を訪問した際に、昼ご飯の価格が二千元から三千元との話を聞いた。その単価の昼ご飯を食べれるだけの賃金水準にもなっているとのこと。▼諸外国の経済がその様なレベルで成長しているとしたら、価格破壊で低賃金に抑え込まれた私たちの生活は、一気に物価高で崩壊しかねない。▼日本経済の好循環を本気で描けるリーダーを探さなければ、今日より良い明日は描けない。